

令和2年度 事後事務事業評価シート

| | | | |
|-----|--------------|--------------|-----------|
| 事業名 | 農業ICT化普及推進事業 | 担当課・グループ | 作成者（職・氏名） |
| | | 産業経済課・農業グループ | 主事 石間 敬悟 |

1 基本事項

| | | | | | | | | |
|------------|--|--------------------------|------|--------|------|----|---|---|
| 事業区分 | 事業開始年度 | 平成28年度 | 事業主体 | 会計区分 | 予算科目 | | | |
| | 事業終了年度 | 令和7年度 | | | 町 | 一般 | 6 | 1 |
| 事業の性質 | 法令に基づかない自主的事業 | | | 条例等の有無 | 無 | | | |
| 根拠法令・例規計画等 | リアルタイムキネマティック測位方式全地球航法衛星システム等導入支援事業補助金交付要綱 | | | | | | | |
| 総合計画 | 基本目標 | みのり豊かなあつま | | | | | | |
| | 基本施策 | 農業の振興 | | | | | | |
| | 施策項目 | 生産を強化するシステムづくりの推進 | | | | | | |
| | ※総合戦略 | みのり豊かなあつまー農業の振興ー農業の成長産業化 | | | | | | |

2 事業概要（Plan）

| | |
|---------------|--|
| 事業の目的 | 経営規模の拡大や、働き手不足の解消、経営の効率化等を目的に、農業生産の効率化と労働力少量化のためのICT、IoT技術の導入について支援し、スマート農業の普及・推進を図る。 |
| 事業の内容（手段・方法等） | ①RTK-GNSS基地局運営…インターネット回線使用料及びRTKライセンス料（R1年度終了） ②RTK-GNSS対応化支援事業…GNSSガイダンスのRTK対応化及び自動操舵（トラクター、田植機等）の導入を支援。3分の1助成、上限90万円。（R1年度実績：5台） ③農業用マルチローター（ドローン）導入支援事業…農業用（農業散布等）マルチローター（ドローン）の導入を支援。3分の1助成、上限70万円。（R1年度実績：1台） |
| 対象 | 町内に事務所又は住所を有し、かつ自ら農業を営む農業者、法人又は農業者で組織する団体であり、農業経営基盤強化促進法に規定される認定農業者、または農業所得が町基本構想目標所得の概ね8割を超えている者（町内220人：R2.3末時点） |
| 成果目標 | 町内におけるGNSSガイダンスのRTK対応化及び自動操舵・農業用マルチローター（ドローン）の導入を推進し、農業生産の効率化、労働力の確保を図る。 |

3 実施結果（Do）

① 事業費

単位：千円

| 事業費の推移 | | 29年度実績 (評価対象前々年度) | 30年度実績 (評価対象前年度) | 令和元年度実績 (評価対象年度) | 2年度予算 (評価実施年度) | 適用 |
|-----------------|------------|----------------------|---------------------|---------------------|-------------------|------------------------------|
| 事業費 | | 2,011 | 3,024 | 4,432 | 9,448 | |
| 特定財源 | 国・道支出金 | | | | | |
| | 町債 | | | | | |
| | その他 | 2,011 | 151 | 4,151 | 4,000 | ふるさと応援基金繰入金 通信運搬費利用者実費負担金 |
| 一般財源 | | 0 | 2,873 | 281 | 5,448 | |
| 人件費（@4,000*時間数） | | 1,242 | 1,242 | 1,242 | 1,242 | |
| 事業費の主な内訳 | 負担金補助及び交付金 | 1857 | 2764 | 4,103 | 9,441 | |
| | 役務費 | 153 | 260 | 209 | 4 | RTK-GNSS基地局運用のための通信費 |
| | 旅費 | 1 | 0 | 0 | 3 | |
| | 需用費 | | | 45 | | RTK-GNSS基地局修理費 |
| | 委託料 | | | 75 | | RTK-GNSS基地局アンテナ移設委託料 |

② 実績・成果

| 指標名称 | | | 30年度(実績) | | 令和元年度(実績) | | 令和2年度(見込) | | 7年度 | |
|-----------------------------|----------------------------------|-----|--|----|-------------------------------------|----|--------------------------------------|----|---------|----|
| | | | (評価対象前年度) | | (評価対象年度) | | (評価実施年度) | | (目標年度) | |
| | | | 数値 | 単位 | 数値 | 単位 | 数値 | 単位 | 数値 | 単位 |
| 主な活動指標 | RTK-GNSS 及び 農業用ドローン 導入支援台数 | 目標 | 15 | 台 | 20 | 台 | 25 | 台 | 55 | 台 |
| | | 実績 | 10 | 台 | 16 | 台 | 28 | 台 | | 台 |
| | | 達成度 | 67 | % | 80 | % | 112 | % | | % |
| ※数値化できない活動内容や指標の変更等について記載する | | | H30実績4台 内訳: RTK対応化4台 | | R1実績6台 内訳: RTK対応化5台 ドローン1台 | | R2実績12台 内訳: RTK対応化7台 ドローン5台 | | | |
| 主な成果指標 | RTK-GNSS 及び 農業用ドローン 導入率 | 目標 | 10 | % | 10 | % | 15 | % | 25 | % |
| | | 実績 | 4.4 | % | 7.2 | % | 12.7 | % | | % |
| | | 達成度 | 44 | % | 72 | % | 84 | % | | % |
| ※数値化できない成果や指標の変更等について記載する | | | 町内認定農業者220名におけるスマート農業技術の導入率を25%へ増高させる。 | | 導入戸数10戸 | | 導入戸数16戸 | | 導入戸数28戸 | |
| | | | | | | | | | 導入戸数55戸 | |

4 事業の評価 (Check)

| 評価項目 | 評価の視点 | 評価結果 | 説明 |
|------|-------------------------|------|--|
| 妥当性 | 実施主体・目的・対象・手段等は公平かつ妥当か? | A | 平成28年度中に市販された低速でも自動操舵が可能な高性能機材に合わせ上限額を改定、補助率については国の経営体育成支援事業に合わせ3分の1で設定している。令和元年度からはドローン導入についても補助対象としている。 |
| 有効性 | 期待された成果が得られたか? | A | 法人やオペレーター不足の農業者からの導入希望が増加した。導入者からの聞き取りから、RTK-GNSSガイダンスの精度の高さにより、自動操舵による作業の省力化・効率化を確認している。JA・普及センター等と連携しデータ収集を進める。 |
| 効率性 | コスト面からみた費用対効果は適正か? | A | 事業実施者は、導入前と比較して経営面積が平均で約1.8ha増加した。町の中心経営体の平均経営面積の増加分(0.3ha)と比較して約6倍であり、適正と言える。また、令和元年度に基地局をJAに譲渡し、令和2年度以降は導入者のライセンス料を4分の1程度に減少させることにつながった。 |

※評価結果は、A：妥当である B：概ね妥当である C：あまり妥当でない D：妥当でない で評価する

5 今後の方向性・課題・改善提案等

| 予算 | 継続(現状維持) | サービス | 継続(現状維持) | 方向性 | 現状維持 |
|-----------|--|------|----------|-----|------|
| 理由 | 活動指標については、令和2年度の目標達成が見込まれる。成果指標についても上昇しており、事業の継続により目標達成が見込まれる。今後は次世代通信システムであるローカル5Gの活用を検討を進めながら、スマート農業の更なる推進のため当面は現状維持とする。 | | | | |
| 課題および改善提案 | RTK-GNSSシステムの普及が一定程度進んだため、今後は自動操舵と農業用マルチローター(ドローン)に限定せず、スマート農業分野において普及が見込まれる新技術にも幅広く補助対象とする制度設計の検討が必要である。また現在、農業用マルチローター(ドローン)の申請はRTK-GNSSシステムを導入したモデルが主流となっている。そのため、導入経費が自動操舵よりも高額となっていることから、補助金の上限額の見直しの検討も必要であると考え。 | | | | |

※予算・サービスは「継続(拡大・現状維持・縮小)」および「終了」から、方向性は「拡大」「現状維持」「縮小」「終了」から選択。

6 評価(本欄は、理事者ヒアリング・内部評価委員会で使用するため事業担当課は入力しないでください)

| 予算 | 継続(現状維持) | サービス | 継続(現状維持) | 方向性 | 現状維持 |
|----|--|------|----------|-----|------|
| 意見 | 予算拡大の意見も出たが、R2の段階でRTK-GNSSシステムは十分にいきわたっている。ただし、ICT技術は日進月歩であるから、また新たな技術の導入も考えられるため、現状維持とした。 | | | | |

7 外部評価委員会評価結果

| 予算 | 継続（拡大） | サービス | 継続（拡大） | 方向性 | 拡大 |
|-------|--|------|--------|-----|----|
| 附帯意見 | <ul style="list-style-type: none"> • 国の制度を積極的に活用するなどして町の財政負担を抑えながら、長期的な事業とすることが望ましい。 • 厚真町は農地の基盤整備が進んでいるので、積極的にスマート農業を推進してほしい。 | | | | |
| その他意見 | <ul style="list-style-type: none"> • 施設園芸に関してもかなりICT化が進んでおり、今後はさらにICT化が進んでいくと考えられるので、施設園芸においても、積極的にICT化を推進してほしい。 | | | | |

評価に対する町の考え方

- 国の事業（既存・新規）の調査を行いながら、農業者・JA等の農業関係機関と連携し、求められる支援に関連する事業の活用に向けた体制づくりに取り組みます。
- 水田作については、畑作と比較してスマート農業技術の実用化が進んでいます。基盤整備後の水田作に活用可能な技術導入の普及推進に取り組みます。
- 施設園芸作の農業者からもICT・IoT技術の導入意向が寄せられています。既存事業と同様に、技術の普及拡大と初期投資の負担軽減策として、農業ICT化普及推進事業の補助メニュー化を検討します。